

## 第1回理事予定者会議 議事録

一般社団法人 尾道青年会議所  
2021年度 第1回 理事予定者会議議事録

日時:2020年9月10日(木) 19:00~

場所:尾道国際ホテル

(出席者)安楽城大作・加度亮平・今岡正英・高橋建太・加藤雄大・島田元太・吉田雄太・高升純・内海洋平・森川陵・大池慎三・沼田剛志・島田昌広・岡本大輔・山本恭平・高山敦好・吉田嵩正・岡本正也・小西琢真・中島裕一郎・歌一行・水野春樹・加藤雅崇

(欠席者) なし

(遅刻) なし

(早退) なし

### 次第

1. 開会
2. 点鐘:(安楽城大作)
3. JCI クリード唱和:(内海洋平)
4. JCI ミッション唱和:(島田昌広)
5. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和:(吉田嵩正)
6. 出席者の確認:(加藤雄大)
7. 配付資料の確認:(歌一行)
8. 議事録署名人並びに議事録作成者の指名:(安楽城大作)
9. 議題の確認:(歌一行)
10. 理事長予定者挨拶:(安楽城大作)

お疲れ様です。本日は第一回理事予定者会議に全員集まっていたいただき、誠にありがとうございます。本当に嬉しいです。

心機一転新たな気持ちでスタートしていきたいと思っておりますので、何卒よろしく願いします。

挨拶に先立ちまして、この度は第一回第二回と理事予定者会議を短縮し1つにまとめさせていただいている都合で、色々とイレギュラーなことが生じております。

本来でしたら、この時期には皆さんの役職も決まった状態で話ができているはずですが、まだ組織図も理事会に承認されていないと言うことで、この度の資料が事前に配布できなかったことなど、生じた混乱をまずお詫びさせていただきたいと思えます。

ただ、組織図以外の資料に関しては事前に配布して、閲覧できるようにしてもらいましたので、私の所信なども読んでいただいている前提で話をしたいと思います。

## 第1回理事予定者会議 議事録

次年度のテーマは「粋～前向きに楽しく～」と致しました。  
どうしてこのようなテーマにしたのかを説明したいと思います。

先日、入会当時からお世話になっているJCのとある先輩と話をしておりました。  
私が入会したのが10年ほど前になりますが、その時期に活躍されていた先輩だったのですが、その当時と今と比べて『今のJCは少し物足りない。楽しさが薄れている』という声を聞く」というようなことをおっしゃられていました。

私は入会当初から先輩に恵まれ、JCの活動を楽しんですることができたのですが、そういった先輩方が卒業されてからは少しトーンダウンしたところがあったように思います。  
そういうこともあり、私自身も先輩が言われたように「以前に比べると楽しさが減っている」と思った時期もありました。  
どうしてそうってしまったのか、考え続けていましたが、最近ようやく答えが見つかったように思います。その原因は一体どこにあるのか。いくつか具体的に検証してみました。

「当時に比べて勢いがなくなっているのか？」そうではないと思います。  
例えば今年で言いますと、高山委員長が今展開されている事業は勢いがある事業です。  
過去を振り返っても、勢いのある事業は多々あったと思っています。

「気遣いができなくなったのか？」そういうことも考えましたが、私自身過去を振り返っても気遣いができていたとは思っていません。  
逆に私より後に入会してきた後輩たちと話していると気遣いができる人たちばかりです。

ではどうして「事業に勢いもあり」「互いに気遣いもできている」にも関わらず、そうなっているのかと考えたところ、少し足りていないと感じたのが、  
「能動的な思いやりの精神」というところが、少し足りていないのかなと感じました。  
簡単にいうと「この人のために何かやってあげよう。この人を喜ばせてあげよう」という気持ちを持って主体的に動いていく姿勢というものを、先輩方は持ち合わせていたように思います。

例えば、理事会の報告などを聞いていると、「やらないといけない」という意識で活動をしているのではないかという風に感じる場合があります。  
「やらないといけない」の延長には「やらされている」という感情が生じてくると思います。  
組織として「こうあるべき」というのは重要ではありますが、受動的に「やらされている」という気持ちで物事に取り組むと、やる気もそがれてしまいますし、その人の持つ魅力も失

## 第1回理事予定者会議 議事録

われてしまいます。

そうではなくて、能動的に「この人の為に動こう」「この事業を通じて、人に喜んでもらう」という気持ちを持つと、行動も積極的になり、人間的な魅力も出てくると思います。そういう姿勢が広がることによって、「尾道青年会議所」という団体としての魅力も広がっていくと思います。

他者を受け入れて、敬意を持って接し、感謝をし、思いやりの心を持って行動する。

そういうことができる人間が「粋」な人間であると思っておりますので、そういう団体にしたいという思いから、こういうテーマにさせていただきました。

所管に関しましては、上程の時に質問してもらえれば答えられる範囲でなるべくお答えしたいと思いますので、まずは来年度理事予定者として、「粋な人間」になるという覚悟を持って取り組んで頂きたい。

そして見本を示して、会全体に広めて頂きたいと思っております。

最後になりますが、来年は加度理事長が広島ブロック会長に決まっております。

私もこれまでの活動で、ブロックがどういうものかは理解しているつもりです。

ブロック会長という仕事は本当に大変な仕事だと思っておりますので、尾道青年会議所として全面的にバックアップしたい、加度さんに喜んで貰いたいと思っておりますので、そちらの方もご協力お願い致します。

最初の挨拶として雑駁になってしまった部分はあったかもしれませんが、これから1年4か月、どうぞよろしくお願いいたします。

### 11. 直前理事長予定者挨拶：(加度良平)

皆さん、こんばんは。まずはこうして、皆さん理事として当選されて、このような状況の中、今日全員が集まったことというのは、非常に素晴らしい事だと思います。

コロナに負けないように、全員が集まれるように、やっていって頂ければと思います。

先ほど、安楽城理事長予定者の方から、来年度に対しての彼の考え方について説明がありましたが、彼の考え方を知るということは非常に大事な事だと思っております。

会社などでもそうだと思いますが、考え方をしっかり揃えないと、どんなに能力の高い人がいても、一つにまとまった行動もできないですし、会としていい方向に進まないと思っております。

ですので、まずは皆さんが安楽城理事長予定者の「粋」というテーマを皆さんなりに解釈して頂いて、しっかり考え方を揃えるということをやりたいと思っております。

今日この後、所管業務が上がってくると思いますが、「わからないところ」「納得できないところ」を直接聞くことができるのは1回しか機会がありませんので、しっかりと話をして

## 第1回理事予定者会議 議事録

頂きたいと思います。

また、大事なのがこれから事業を作っていく中で、予算を決めていかなければいけません。予算は事業をやる上で非常に重要になってきます。

「例年通り、この事業にはこのくらいの予算が下りているから、このくらいで考えよう」という考えで予算を入れるのではなく、「粋」な事業が作れるような予算組みができるようにお願いします。

「これをやるとこういう良い効果が期待できるので、例年よりこれだけ多く予算を下さい」という要望は、議論する価値があると思います。

「例年と一緒にだから」という考えや、「説明ができない」という予算組みが無いようにして頂きたいと思います。

そのためにも、安楽城理事長予定者の考え方をしっかり参考にして、理解しなくてはなりません。また、委員長予定者の方は、委員長としての考えも示していかなければなりません。自分のやりたいことを、目に見える形にするというのは非常に大事なことです。

例年、「予算は割と簡単に通る」という悪い風潮があるように感じるが、決してそんなことはないので、予算に対して真剣に取り組んで欲しいと思っています。

以上で私の話を終わりたいと思います。ありがとうございます。

### 12. 理事長予定者報告：(安楽城大作)

資料にて確認

審議事項

第1号議案 一般社団法人 尾道青年会議所 2021年度 理事会構成図(案)に関する件 (資料2-1)

\*賛成多数で承認可決

第2号議案 一般社団法人 尾道青年会議所 2021年度 委員会構成図(案)に関する件 (資料3-1)

こちらに関しましては、先ほど理事が決まったということであり、冒頭で述べさせていただいた第一回と第二回の理事予定者会議をまとめた影響で、こちらの委員会構成に関しましては、事前に配信することができませんでしたので、本日初めて見る事になると思いますが、それぞれ拝見して、何かご意見等有ればお伺いしますが、如何でしょうか？

ご承認頂ける方は拍手を持って承認頂ければと思います。

\*賛成多数で承認可決

第3号議案 一般社団法人 尾道青年会議所 2021年度 所管業務(案)に関する件 (資料4-1、4-2)

各委員会の例会行事も前もってそれぞれの担当月を割り振っております。

それ以外にも各委員会に所管を掲げさせて頂いておりますので、こちらに関しましてご質

## 第1回理事予定者会議 議事録

問等ありましたら伺いますので、是非忌憚の無いご意見ご質問頂ければと思います。

先ほど次の理事会でも質問を受けると申しましたが、次の理事会が10月の室合同委員会の後になりますので、どうしても方針を決めるということになると、本日も質問頂き、スタートして頂いた方が良くと思いますので、遠慮無くご質問頂ければと思います。

(内海洋平) 所信の中に「持続可能」というキーワードが盛り込まれておりますが、私の解釈では「将来の世代や地域のために、今我々ができることをやっていく」という考えですが、安楽城理事長予定者の考え方をお聞かせ下さい。

(安楽城大作) こちらに関しては、2つに所管を分けておりますが、一つ目の「活気溢れるまちづくり」のほうは、今のコロナの影響でまち全体がトーンダウンしている背景があり、どうやればそれを盛り上げていけるかを考えて頂きたい。現状に対して活動して頂きたいというところ です。

そしてご質問頂いた「持続可能」というキーワードに関してですが、

例えば、尾道は以前から「観光を発展させていこう」と活動してきたと思いますが、観光のメインはやはり土日祝日に集中しております。

土日祝日には観光客向けのお店に人は集まっておりますが、平日はどうか？

特に最近、観光関連のお店が増えている中で、それらのお店を地元の人たちが知っているかという、そうではないと感じています。

私自身経験が無いので詳しいことはわかりませんが、そういう背景では、人の多い土日祝日には人を出し、平日はあまり人を出さないというシフトを組まざるを得ないのではないかと。しかし果たしてそのようなやり方で観光業というのは成り立っていくのか、という疑問があります。尾道市として観光に取り組んでいくのであれば、「土日祝日は観光客向け」「平日は地元の人たちを巻き込んでいく」という形を取らないと持続ができないのではないかと、そう思っています。

今は例えとして観光を出しましたが、他にも課題は沢山有ると思います。

尾道というまちを資源として持続・発展させていくために、どういう風なやり方をしていくかを考えていきたいと思い、こういう所管にさせて頂きました。

(吉田嵩正) 所管の会員拡大の調査・研究・実践についてなんですが、安楽城理事長の考えられている、目標数などがありましたらお願い致します。

(安楽城大作) 私が入会した当時は100人届くか届かないかという人数がいました。1年間通して届いたことは無かったですが、80人~90人は常にいる状態でした。

そして現在は70人を切ってしまう状態があります。

できれば80人~90人に戻していきたいですが、私が入会したときは第二の団塊の世代の方々が多くおられたこともあって人数が多くいたので、そこに戻すというのは多少の無理

## 第1回理事予定者会議 議事録

が出てくると思いますので、それは好ましくないことだと思います。

目標の設定はあまりしたくないですが、やはり「10人」入ってくれば、会にとってもすごく助かると思います。

というのが、今年は9人入会して頂きましたが、今年含めて5年間、5人しか入らなかったと仮定すると、5年後には50人を切ってしまう。

50人を切ってしまうと、今70人弱いる状態でも組織図を作っていく上で難しいので、減らさない方向で考えて頂きたいと思います。

(山本恭平) 所管業務の中に「次代に繋げる組織作り事業」と書いており、先ほど安楽城理事長予定者のご挨拶のほうでも、しっかりと行動に繋がられる人が一人でも増えることで、次代に繋がる都市になっていくとおっしゃっていたと解釈しておりますが、安楽城理事長予定者の考えをお聞かせ下さい。

(安楽城大作) その通りだと思っております。

本日冒頭で言わせて頂いたことが、この次代に繋がる組織作りの事業に繋がるのではないかと考えております。

やはり、尾道青年会議所事態に魅力が無ければ会員拡大もままならないですし、現役メンバーの退会にも繋がってしまう。どういう風なやり方をすれば各事業が、それぞれ結束力を深められるような事業を行えるか。

個人的には「楽しくやる」というのが鍵になってくるのではないかと考えています。

山本委員長の考える魅力ある組織というのがどういう組織なのか、そういう組織にするためにどうすれば良いのかを考えて頂きたいと思います。

また、山本委員長は2021年の事業担当になるわけですが、当たり前のように2030年代にも尾道青年会議所が存在していて欲しいと思っています。

頑張らなければどんどん縮小していく状況の中、今の現役会員が「未来に繋げていく」という気持ちを持ってもらえるような活動をして欲しいと思います。2030年代により良い尾道青年会議所がある、そういう気持ちで来年取り組んで欲しいと思います。

(島田昌広) 次世代の教育ということですが、学校の自粛があり、家で過ごす時間が増え、学校の行事は中止になり、子供達の思い出や経験値の不足という問題が出ています。

そういうことは勿論フォローしていくべきであると思いますが、一方で自粛期間中の家庭での学習面での差というのも出てきてしまっており、深刻な問題だと捉えています。

そちらに対してのフォローも、事業として盛り込むべきなのか、お考えをお伺いできればと思います。

(安楽城大作) 地域教育実践委員会に関しては、所信の中で書かせて頂いたと思っています。

## 第1回理事予定者会議 議事録

島田さんの言われた「学習面」に関しては、あまり焦点を当てていなかったのが正直なところでは。

例えば、みなと祭りの練習をしたのに、祭りが中止になって発表の場が無い。

卒業式も例年とは違う形で行う、修学旅行も中止になったり、トーンダウンした形ではできなかったりする中で、JCとして「思い出作り」に関して何かフォローができないかという気持ちがあります。

もちろん、島田委員長予定者は子供達の教育・学習面に関してのプロであるので、そちらもカバーしつつ、思い出作りにもなるようなことがあればやっていきたいです。

私の思いとしては、何らかの形で今のムードを払拭して思い出を作って貰いたい。

今までJCが取り組んできた、教育関連の事業を踏まえた上で事業を組み立てて貰えればと思います。

(山本恭平) 所管業務の中の夏期講習について、例年は宿泊をして夏期講習を行っています。コロナがどうなるかわからない中で、次年度は宿泊、もしくは当日のみになるのか、また内容は運動体力系なのか、座学なのか、理事長予定者のお考えを伺いたいと思います。

(安楽城大作) 夏期講習に関しましては、今のところは宿泊でやって頂きたいとは思いますが、先が見えない状況は無視できないと思います。

メンバーにお願いすれば、宿泊は実現できるかもしれないが、メンバーのご家族や会社に迷惑を掛けるわけにはいかないので、その時の状況によっては「宿泊は無理」という判断もせざるを得ないと思います。

ただ、宿泊をしての夏期講習は、会員同士の交流の場にもなっていますので、今のところは例年通りの形でやって欲しいと思います。

事業の内容につきましては、私がどうして欲しいというのはありません。

私も委員長の時に夏期講習を担当しましたし、どちらも良い面があると思います。

しかし、あくまで「講習の場」ではありますので、多少の修練は必要であると考えます。

ただの遊びのようなことは辞めて頂きたいと思います。

座学に関しても、去年大本委員長がやりましたが、私は副理事長をやっておりました。

本当にためになりましたし、会社に活かしたことも結構あったので、そういう風にはできないと魅力が生み出せないと思います。

やり方は問いませんが、何か得るものがあると感じてもらえるようなものにして欲しいと思います。

(大池慎三) 所管業務の中で、「災害に強いまちづくり事業の調査・研究・実践」とありますが、対象は地域全体なのか、学生をメインにした物なのか、お考えをお聞かせ下さい。

## 第1回理事予定者会議 議事録

(安楽城大作) 災害に関しては、卒業された河原研介先輩が事業でやられましたが、その取り組みの評判が相当良いという背景があり、そういう形で繋がっていくことは良いことだと思いますので、その事業を参考にされても良いとは思いますが。

私の考えとしては、「どれだけ意識を広めていくか」がテーマになると思っています。

私自身、災害についての初めての事業に取り組んだ時には委員長が宮地晃二郎先輩で、私は副委員長という立場だったのですが、それまで災害に関してほとんど意識をしていませんでした。

会社でも何の取り組みもしていなかったのですが、1年間の事業を通じて、防災に対する意識が目覚めました。

例えば、会社の倉庫の棚を固定して地震対策をしたりしましたが、その事業が無ければやっていなかっただろうと思います。そういう意識を広めることが、個人個人を動かし、防災に強いまちづくりに繋がると思います。

事業を受けた子供達が今後長年に渡って、そういう意識を育んでくれれば素晴らしい事だと思いますし、まちに住む人たちを対象に広く事業を行っても良いと思います。

「防災意識を広めて欲しい」というのが私の願いです。

(内海洋平) 私の所管業務と言うよりは、全体に関わる話になるかと思いますが、新型コロナウイルスの影響で先行きが不明確であると考えておきまして、今後「with コロナ」「ニューノーマル」という考えが定着していくのかなと考えております。

先ほどの山本委員長予定者の、夏期講習の宿泊をどうするか議論もそうですが、「柔軟に対応できる事業」を考えた方が良いのかなと思います。

その辺に関してはお話し頂けますか。

(安楽城大作) 最初に言っておきたいのが、コロナの影響を考えて活動を行っていかないといけないというのは当然ではありますが、来年度に関しては「コロナウイルスがあるからやらない」というのは、基本的には考えていません。

もちろん状況によっては、中止を考えないといけないこともあるかもしれませんが、それはあくまで「最悪の形」であります。

その中でどういった形でやるのかを模索していかなければならないと思いますが、今全員にお配りしている「本年度の事業中止の判定基準」の資料があると思います。

本年度の事務局が作成してくれましたが、来年度も「中止の判断基準」「事業をする場合のガイドライン」の作成をしたいと思っています。

それらも参考に頂きつつ、来年度の活動をどうやって行っていくかという方針を、理事会全体で作りに上げていきたい。

今ある物が確定では無く、これから思うことをどんどん入れ込んで、作り上げていきたいと思っています。それに沿って上程や事業を行っていきけるようにしていければと思います。

## 第1回理事予定者会議 議事録

(小西琢真) 総務広報活動の実践において、コロナ禍ではインターネットが中心になってくるのではと考えていますが、インターネット以外に「こういう広報展開をしたい」という思いがあれば教えてください。

(安楽城大作) 広報の展開については、毎年の委員会活動において Facebook や HP など色々な媒体で広報活動をしてきたと思います。

やり方は色々有ると思いますが、例えば昨年の岡田貴臣委員長は「例会でこのような反応があった」という報告をするなど、参考になる事例が有ると思います。

どうやったら青年会議所がやっている活動を幅広く伝えられるか、どの媒体を使えばどういう効果があるのか、そういう点を検討して活動して頂きたいと思います。

この数年を振り返ったときに、青年会議所として良い事業をやっていると思うのですが、先輩方とお話した際に「どういう活動をしているか見えてこない」という厳しい意見を頂くことが多々あり、すごくもったいないと感じています。そういうことを減らせるように、良い活動をしていることを幅広く広めて欲しいと思います。

そのための媒体は問いません。選んだ媒体に自信を持って、全ての委員会の活動を広報して頂きたいと思います。

但し、「JC ライフ」に関してだけは、こちらは私の希望として紙媒体で作って頂きたいと思います。また作成時には、可能な限り楽しんで作ってもらえればと思います。

(小西琢真) 「JC ライフを紙媒体で」ということでしたが、それをまちの人たちに配ることも考えているのでしょうか。あくまで現役会員と OB メンバーのみでしょうか。

(安楽城大作) まちの人に配ろうとすると記載内容が制限され、ある意味面白みに欠けてしまう部分が出てきてしまうかと思いますが、今まで通りの配布形式でやってもらいたいと思います。

これまで先輩方が築き上げてきた物があるので、せっかくであれば現役会員がどういう人たちであるか、先輩方に知って貰いたいという気持ちはあります。

例えば今回の高山委員長の花火事業に対して、先輩方はクラウドファンディングを通じて貢献してくれたと思います。そういったことも、広報活動あって実現したことで、活動の幅が広がるという意味も含めて先輩達との繋がりを強化したいという気持ちがあります。

活動の幅は限定されますが、その分面白い物を作ってもらえればと思います。

(島田昌広) 例年、教育機関との連携を図る事業も多いと思います。今こういう状況において教育委員会などは、腰の重い機関が多いと思います。

そういった中で、学校単位で巻き込んでいくというよりは、生徒さんの家族に PR するほう

## 第1回理事予定者会議 議事録

が集まりやすいように思います。

無理に教育機関にPRするよりは、家族を巻き込むことができれば、そこにこだわる必要は無いと思っておりますが、そういった考えで問題ありませんでしょうか。

(安楽城大作) 手法に関しては問いません。学校を巻き込めるのであれば巻き込めばいいと思いますし、家族を巻き込めるのであればそうすれば良いと思います。

コロナウイルス感染拡大防止の配慮を一番すべきところだと思いますので、もし子供達に集まって貰う必要がある事業をするのであれば、安心して集ってもらえる設えにすることが大事だと思います。

そして、それを実現するためには学校の協力が必要になってくる場合があることもあるかとは思いますが。

安心感のある上で、思い出作りをして欲しいという気持ちが一番にあり、それを実現できるのであれば手法は問いません。

(岡本大輔) 所信の中で、「学校生活の思い出が次々と自粛に追い込まれる中で、子供達の将来に及ぼす影響は計り知れません。」という言葉があります。

学校の中での思い出というのは色々な物があると思いますし、そのどれもが子供達の将来に良い影響を及ぼす物だと思っております。

そういう学校行事が全て無くなってしまった中で、一番悪い影響というのは何だとお考えでしょうか。

例えば、全体的にトーンダウンした、いつ元に戻れるかわからない生活の中で、活発だった子供が暗い性格になってしまうということもありえると思います。

そういった中で、安楽城理事長が考える、一番悪い影響とは何でしょうか。

(安楽城大作) 私はいろんな子供達をみるような立場では無いので、なかなか難しいところがありますが、自分の子供に関して言えば、今小学校2年生であり授業が無い状況があります。学業に関しては影響があるかもしれませんが、幸い私の子供たちはそういう状況を楽しみながら生活をしているように見えています。

しかし、小学校高学年になれば楽しみにしていた行事が無くなってしまったということは気になると思います。

自分の子供達にしても、楽しみにしていた行事が無くなって残念そうにしていたりしますので、イベントが無いということが一番辛いことでは無いかと思っています。

本来有るべきことが無くなり、できていたはずの思い出が無くなり、子供達は今の時点では気づいてないかもしれませんが、後々それは特殊な事になってくると思います。

将来のことも考えたときに、「コロナウイルスの影響で無くなった物もあったが、代わりにこういうことがあった、こういう体験ができた」というような思い出ができれば良い影響が

## 第1回理事予定者会議 議事録

与えられるのではないかと考えています。

(森川陵) 未来ビジョン委員会の所管業務の中の「活気あふれるまちづくり」というところなのですが、活気という賑わい、集客ということが、これまでの事業を見ると頭に浮かびがちなのですが、安楽城理事長予定者の考えられる活気という物はどういう物なのか。もう少し具体的にお話聞かせて頂ければと考えております。

(安楽城大作) これに関しては、未来ビジョン委員会だけで無く全体に言えることですが、今現状がどうなっているかをしっかり調査をしてもらいたい。

(総務広報を除く) 全ての委員会の所管業務に、調査という項目が入っていますので、コロナウイルスの影響を受けて、現状がどうなっているかを調査して欲しいです。

色々なところが変わってしまっている中で、全体的に活気を作り上げる、人が集まるような事業をするというのはなかなか難しいと思います。

そこで、調査していく中で特にどういった団体や業種が影響を受けてしんどい思いをしているのか。

みんな落ち込んでいますが、突出して落ち込んでいるところがあるはずですが。

そこにフューチャーして、みんなで盛り上げて、助け合っていければいいなと考えています。それが活気に繋がるかどうかはわかりませんが、そういう行動が「思いやりの心」だと思っています。

そういうことを続けていくことが、いずれ活気に繋がるのではないかと考えています。

(高山敦好) 次代に繋げる組織づくり事業の調査・研究・実践とありますが、次代に繋げるということで、現状のJCのルールというものがあると思いますが、安楽城理事長予定者の中で「変えた方がいい物」「変えてはダメな物」について、何かイメージ等ありますでしょうか。

(安楽城大作) 変えた方がいい物に関しては、冒頭でも言いましたが「これをやらないといけない」「こうあるべきだ」という意識です。

JCの中ではそういった物は必要ないと思っています。

理事会等で練られた物が形になるわけではありますが、JCの中では、何でもやっていいし、そうあるべきだと思っています。

ですので、そういった固定観念は壊して頂きたいと思っています。

事業をやるにあたって、目的とターゲットになる人が噛み合わないことがあったり、背景と合っていない事があったり、ニーズが無いことがあったりすることがあります。

「何のために・誰のために」するのかを明確にした上であれば、「なんでもやってもいい」という意識が必要になると考えています。

## 第1回理事予定者会議 議事録

内面的な部分になりますが、そういう意識を変えていって欲しいと思います。

(高山敦好) ありがとうございます。もう一点伺いたいののですが、来年一年終わったときに安楽城理事長予定者が「対外からどういう風に言われたいか」「体外から見てどういう一年だったと言われたいか」そういった何かイメージがあればお教え下さい。

(安楽城大作) 「対外からどう思われたいか」というのは、ありません。一年通して、ここにいるメンバーが「良い一年だった。やって良かった」と思ってくれば、それが次に繋がってくると思いますし、そういう繋がりが重要だと思っています。外からどういう風に見られるか、「変なことばかりやっている」という見られ方をする可能性もありますが、見られ方を気にするよりも、内部の皆さんの達成感の方が、私は重要だと考えていますし、達成して頂きたいと思います。

(小西琢真) 「内部メンバーが楽しめる一年にして欲しい」という事でしたが、広報については、メンバーに向けて、メンバーが読んで楽しめる内容を目指すという認識でよろしいでしょうか。

(安楽城大作) そうして頂ければと思います。そして、作っている側も楽しんで欲しいと思います。

「これからも JC ライフを続けていくぞ」という風になってくれば、内容は問いません。

(岡本大輔) 所管業務の中の、7月の交流例会(ゆかた会で)、今年は残念ながら中止となってしまいました。

安楽城理事長予定者は OB との交流に関してはどのような物をイメージされているでしょうか。

例えば、例年ですと現役メンバーと OB との境目があり、同じ場所で食事を共にする、そういう風な形であるのか。

現役と OB の枠を取り払い、みんなが交流しながら楽しめるような場を作るのか、どういう風にイメージされているのかをお聞かせ願えればと思います。

(安楽城大作) 本来ゆかた会のところを、交流例会と書かせて頂きましたが、どういう風な開催になるのかわからないため、幅を持たせられるようにこういう書き方しております。状況が許せば、例年通り、7月の例会に関しては、OB との交流をメインにした例会を行って頂きたいと思っております。

中身ではありますが、先ほど岡本副委員長がおっしゃられたように、より交流の深められるような物にして頂きたいと思います。

## 第1回理事予定者会議 議事録

JCに入ってから一番良いことは、人との繋がりがだと思いますし、私自身そういう繋がりが持っていて感謝もしています。

やり方は問いませんので、そういう繋がりができやすい形を考えて頂ければと思います。

(島田昌広) 先ほど事業について「家族を巻き込んでいく」ということについてお話しさせて頂きましたが、当委員会は「家族会」も担当ということになっております。

どちらが先に実施されるかは不確定ですが、例えば先に行われた事業ですごく手応えのある事が実施できた場合、それを引き継ぐような形を取って、後の事業に被る部分が出てきても良いのでしょうか。

(安楽城大作) 勿論、構いません。一貫性が出てくる側面もあると思いますので、やって頂ければと思います。

また、家族会についてですが、個人的には大事なイベントだと思っています。

例えば本日の会議など、夜に家を空けて出ていく事も多くあり、家族に負担を掛けていると思います。

コロナウイルスの影響もあり、外に出るだけでも普段よりもストレスになってしまう状況の中で活動をやっていかないといけません。

家族会、クリスマス会は家族に向かって、「こういう活動を行っているのだ」というのを見せる機会であり、それが結果的に皆さんの活動への協力にも繋がると思いますし、家族を労う機会でもあります。

ご参加頂いた方々にしっかり喜んでもらえるような事業にして頂きたいと思っております。

(中島裕一郎) 全体に関してですが、これから一年間の活動の中で、コロナウイルスの収束が見えない中、公開例会と一般に向けた事業をどうするかという問題は出てくると思います。

今の判断はできないとは思いますが、「この人数であればできる」というような具体的な基準や人数などは出されるのでしょうか。

(安楽城大作) 個人的な意見ですが、公開例会にしても事業にしても、強制的に連れてくる訳では無いと思っています。

来てくれる人というのは自発的に来る人だと思いますし、同意を得ていると言えるのではないかと考えます。

そうは言ってもリスクはありますので、先ほど話題に上がったガイドラインを作り、それを前提にしたいと思います。

例えば尾道ロイヤルホテルさんでは、「宴会は収容人数の半分」という決まりを作って対応されていると聞いています。

## 第1回理事予定者会議 議事録

そういった形で各会場、施設毎に対応の基準はあるかと思います。

公開例会をテアトロシエルネさんでやるのであれば、テアトロシエルネさんの基準も参考にしていく。

できるだけ色々なことを配慮すれば、事業はできると思いますし、するべきだと思っています。

(中島裕一郎) ありがとうございます。先ほど配られた「事業中止の判断基準」について質問させて下さい。

まず、①の「広島県内において1週間の10万人当たり感染者数が10人を超えた場合」

これは東京などを見ていても、急に爆発的に増えない限り大丈夫だろうと思います。

②の「尾道市内のクラスター感染が発生した場合」

この可能性はあると思います。

そしてこの中で一番可能性が高いのが、④「現役会員の中で感染者が発生した場合」だと思います。

公開例会や事業を計画する上で、この基準が一番厳しいのかなと思います。

私も含め、理事会のメンバーは特に気をつけて運営していかなければいけないのかなと思います。

(安楽城大作) これらの基準は、先が見えない中何らかの線引きが無いと活動がしにくいということで作成されました。これが絶対の基準というわけではなく、臨機応変に対応していくことが必要だと思っています。

先ほど言われたように「会員メンバーに感染者が出て場合」も、皆さんに意見を聞いて臨機応変に対応したいと思っています。

(沼田剛志) 新年例会の担当になっておりますが、コロナウイルスの影響がどの程度あるのか見えない中、Webも選択肢に含めるのか、OBとの交流はどうするのか、などイメージされているでしょうか。

(安楽城大作) 新年例会をどのような形でできるのか不安はあります。その前に卒業例会もありますので、それも指針にはなってくると思います。

今のところ、通常形でやるつもりでいます。ただ、案内を出して来てもらえるかどうかは、来る側の権利なので、例年よりは少なくなる可能性はあるかと思います。

そうした事も見越して、「Webでも見られるようにしますので、是非ご参加下さい」と言ったようなハイブリッド型で、参加をお願いするのは有りだと思います。

新年一発目の大切な日なので、状況が許せば通常通りやりたいと思っています。

## 第1回理事予定者会議 議事録

(安楽城大作) 他にはありませんでしょうか。今日が最後では無いので、副理事長を通してでも、直接でも質問等があれば聞いて頂きたいと思います。

なるべく皆さんが思うことを形にして頂ければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これで第3号議案の所管業務に対する件を終了致します。

賛成の方は挙手にてお願い致します。

全会一致を持って承認と致します。何卒よろしくお願いいたします。

第4号議案 2021年度 出向者に関する件：(歌一行)

上程させていただきます。2021年度出向者についてですが、事務局に一任させていただいてよろしいでしょうか。

また、委員長の皆さんは自動出向となります。それ意外に連れて行きたい委員会メンバー等ありましたら、後日お知らせ頂ければと思います。

(安楽城大作) 補足ですが、加度ブロック会長がたたれる予定ですので、それに伴ってブロックの事務局と総務委員会を尾道の方で受ける予定になっています。

そこに出向して欲しいという話が出てくると思いますので、それは是非快く受けて頂きたいですし、フォローも委員会の方でやって欲しいと思います。よろしくお願いいたします。

その他質問はございませんでしょうか。

それでは、これで第4号議案の所管業務に対する件を終了致します。

賛成の方は挙手にてお願い致します。

全会一致を持って承認と致します。何卒よろしくお願いいたします。

これにて審議事項を全て終了しました。この審議をもちまして、正式に今回の組織を確定致します。

副理事長として、島田君、吉田君、高升君の3名がやっていただき、専務は歌君にやっていただくことが正式に決定しました。

皆さんには所信を作って頂いておりますので、それぞれ熱意を持って、この場で発表して頂きたいと思います。

(島田元太)

※所信読み上げ

このような所信にさせて頂きました。私が担当するのは、未来ビジョン委員会と社会開発委員会になります。

今年の体験で感じたのは、前例が通用しなくなってしまったのだらうということです。

過去に無い状況があり、来年度皆さんが行う活動が基準になってくかもしれません。

色々な事を考えて、やっていけたらと思っています。

## 第1回理事予定者会議 議事録

それと、「やる前提で望む」と理事長がおっしゃっておりますので、不可能に見えることはあるかもしれないが、どうやって実現にするかを考えていければと思っています。

(吉田雄太)

※所信読み上げ

私は入会して約五年経っておりますが、その五年間で見てきた物、感じたことをここに書かせて頂きました。

今回担当になっていますが、教育系と組織系ということで、自分には合っているのではないかと考えています。

どんな委員会活動にしていく上でも、まず組織がしっかりしていないと、何をやっても不十分であると考えております。これは全ての委員会に当てはまると思いますので、全体で底上げしていければと思います。

教育に関しましては、理事長もおっしゃられていましたが、子供達の思い出になるような事が少なくなっていますので、何かできることがあればと思っています。

具体的な方法については、委員長予定者方にお任せしたいと思います。

最後に「力」というと、やはり数は重要だと思いますので、当室は拡大活動にも力を入れていきたいと思っています。

(高升純)

※所信読み上げ

コロナウイルスの影響で、今やりたいことができないという状況があります。

しかし、来年度に関しましては安楽城理事長予定者がおっしゃられているように、基本的には実行するという方向で当室も考えています。

どのようにすれば人に楽しんでもらえるかということを考え、何よりもまずは自分たちが楽しむことを実践したいと思います。

当室は拡大と総務になっておりますので、自分たちが楽しんでいることを発信し、共感してくれる仲間を増やす、これにつきますと思います。

どちらも皆さんのお力を借りなければ成り立たない委員会です。

是非ご協力頂き、尾道を盛り上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(歌一行)

※所信読み上げ

本年度は世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスによって制限を余儀なくされた部分が多々ありました。

2021年は、この状況を踏まえて、安楽城理事長予定者の言うように、事業を行っていかうという風になっております。

## 第1回理事予定者会議 議事録

「こういう状況下だからできない」という考えでは無く、「こういうことであればできるのではないか」という若い考えで、Createしていき対と思います。

事務局としては例年よりは少ない人数ではありますが、先日の卒業生スピーチで川原さんや山北さんが言われたように、安楽城理事長予定者の口癖である

「楽しゅうやろうや」

をモットーに、選挙で選ばれた皆さんと共に、みんなが「やって良かった」と思えるような事業を生み出していくことが我々の責任だと思えます。

大変な状況下ではありますが、できる限りのバックアップをしていく所存です。

みんなで切磋琢磨してやっていける理事メンバーでありたいと思いますので、1年4か月どうぞよろしくをお願いします。

(安楽城大作) 心強いお言葉を頂きありがとうございます。

補足ですが、先ほど拡大の目標人数設定はしないとしましたが、広島ブロックの方で「各LOM 15名必達」という目標があるそうですので、よろしくをお願いします。

拡大活動は全体活動ですので、皆さんご協力をお願い致します。

13. 報告依頼事項：(歌一行)

14. 連絡事項：(加藤雄大)

次年度 事務局長予定者の加藤です。皆さんの活動がより「粹」な物になるようにサポートして参りますのでよろしくお願いします。

何点か連絡事項がございます。

まずは、コロナウイルス対策のガイドラインについてですが、今年のを参考に作成しております。今後皆さんの意見を頂きながらブラッシュアップさせていきますので、ご意見頂ければと思います。回覧をお願いします。

本日は回覧のみになりますが、近々何らかの形で皆さんの目に触れられる形にしたいと思いますのでよろしくお願いします。(※後日理事メンバーへメールにて配信)

次ですが、9月24日の室合同委員会ですが、19時からグリーンヒルホテル尾道で行います。懇親会は無しとなっておりますのでご了承下さい。また、案内文配信しますので、委員長予定者の方はメンバーにお声がけをお願いします。

次回の上程締め切りですが10月2日になっています。合わせてお願いします。

上程の方法や各種フォーマットに関しては、また配信しますのでご確認をお願いします。

初理事の方々へ向けてなのですが、今年度の理事会へのオブザーブ出席をお願いできればと思っています。

10月6日の火曜日・11月6日の金曜日が直近2回の理事会ですので、私か本年度の中司事務局長へ何かあればご連絡下さい。

また、本日お配りした「理事就任承諾書」ですが、記入頂いた上で次回10月21日の時に

## 第1回理事予定者会議 議事録

お持ち下さい。住民票が必要になりますので、添付して提出して下さい。  
以上です。

### 15. 監事予定者講評 :

(今岡正英) お疲れ様です。次年度監事を務めます今岡です。第一回の理事長予定者会議ということで、理事長予定者の所信、理事会の構成図、委員会構成図が出そろいました。委員長予定者の皆さんは、もう来年度は始まっていて、「あれをやろう、これをやろう」と考えられていると思います。

当たり前のことですが、理事長所信と所管業務に沿った形で、自分の思いを表現、形にして欲しいと思います。

理事長予定者のご挨拶の中で「能動的に」という言葉がありましたが、私もその言葉には非常に共感しており、今のJCに不足している部分かと思っています。

特に委員長予定者の方々は、人任せで無く、全て自分でやるのだという気持ちで取り組んで欲しいと思います。

委員長の強い気持ちに、委員会メンバーが付いてくるという形が正解では無いかと私は考えています。

また、副委員長予定者の皆さんにお伝えしたいのですが、委員長が一番相談したいのは皆さんだと思っています。

なるべく委員長の相談には乗ってあげて欲しいと思います。お願いします。

2021年度に向けて、今日がスタートです。

皆さんが理事という自覚を持って頂き、粹な一年にして頂くようお願いいたします。

(高橋建太) 次年度監事予定者の高橋です。よろしくお願いいいたします。

まずは第一回の理事予定者会議の出席率が100%だったことは、素晴らしいことだと思います。この1年と4月を、理事という自覚を持って取り組んで欲しいと思います。

私がお伝えしたかったことは全て今岡監事予定者が言ってしまったので、私からは1点だけお伝えしたいと思います。

私が理事をしたときに非常に為になったのは「貸し借り」です。

委員長同士の貸し借りも、委員会メンバーとの貸し借りもそうです。

組織として動く中で、貸し借りは非常に大事になってくると思いますので、そこを心にとめて頂ければと思います。

### 16. 次回開催日の確認 : (歌一行)

次回の理事予定者会議は10月21日水曜日です。19時より国際ホテルにて開会します。

### 17. 閉会 : (歌一行)

## 第1回理事予定者会議 議事録

以上をもちまして、一般社団法人尾道青年会議所 第一回 2021 年度理事予定者会議を閉会  
します。

18.点 鐘：（安楽城大作）